

2019年度 学校自己評価・関係者評価

学校番号72 長野県木曾青峰高等学校 全日制

学校教育目標	重点目標
<p>広い視野とやさしく豊かな心を持ち、真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人間を育成する。 (教育方針) ① 自他の敬愛と協力を重んじ、民主的な社会の形成者たるにふさわしい豊かな人間性を養う。 ② 自主・自立の精神を養い、主体的にして責任ある行動のとれる人間を育てる。 ③ 学習及び諸活動における真摯・勤勉の気風と切磋琢磨の精神を重んじ、個々の能力の伸長を図る。 ④ 多様な学習によって、自らの未来を切り拓く力と創造性豊かな個性をはぐむ。 ⑤ 故郷の社会・文化を大切にする心を培い、地域社会の発展</p>	<p>① いじめ・体罰などのない安心かつ安全な学校づくりを進める。 ② あらゆる分野で生徒一人ひとりを大切にする教育活動を推進し、生徒の能力や個性を伸ばすことで、進路希望の実現を図る。 ③ 生徒会・部活動などの諸活動を積極的に支援し、地域社会に貢献できる生徒を育てる。 ④ 地域社会との連携と開かれた学校づくりを推進する。 ⑤ 「夢に挑戦する学び」、「高大接続改革」への対応を進める。</p>

評価 A…よい B…おおむねよい C…不十分

自己評価		学校評議員評価	
学習指導	評価	評価	意見・感想
<p>授業内容の充実 【成果と課題】 生徒の授業への評価はおおむね良好である。昨年度、電子黒板が全HRなどに導入され、ICTを活用した授業が増えている。 【改善策・向上策】 ICT支援員の訪問は昨年までであり、今後継続して行われる方を望みたい。ICT活用のための職員研修を計画実施するなど、職員内での普及促進を図りたい。導入された電子黒板も、いずれ更新されなくてはならない時が来るはずで、その対処のめどが必要ではないかと思われる。</p>	A	A	<p>○各教科で活用できると生徒の関心も向き、効果的に双方向の授業が成立していくと思う。また、そのような場面を是非見せていただけるとありがたい。 ○ICT、IOTを活用する事は卒業後の社会生活にも通じる部分であるため、積極的な導入が望ましいと思います。 ○一方的な講座型の授業から生徒自身もICTを活用して学習を深化していけるような授業の工夫もめざしていただきたいと思っています。 ○ICTを積極的に利用することは、良いことである。</p>
<p>家庭学習の習慣 【成果と課題】 教科、科目によっては課題が出され、家庭学習をする習慣、あるいはしなくてはという意識は定着していると思われる。ただ、家庭学習が必要なことはわかっているはずであるが、その定着は切実さがないうちはなかなか進まないのも現実である。 【改善策・向上策】 ゲームスマホといった原因も挙げられるが、個々の生活習慣や家庭での過ごし方ともかかわり、実効性のある対策には結び付きにくい。むしろ切実さを意識させる雰囲気づくりなどが早いうちからあるべきである。</p>	B	B	<p>○家庭学習の習慣や意識が定着していることは、すばらしいと思います。家庭学習への取り組みは、小学生の頃からの学校・家庭の指導が大切だと思います。 ○家庭での学習は大事であるが、今の子供達は、他のことに時間をかけている。 ○「家庭学習＝宿題」という意識から、自身の進路のため、学力の向上のためという意識へと高まってほしい。 ○家庭における保護者の姿勢にも関わりがあると思います。</p>
<p>授業・補習内容の充実 【成果と課題】 夏休み、放課後、朝ドリルの形式など、さまざまな補習が行われていて、必要な生徒にはよく届いている。 【改善策・向上策】 上記の半面、土曜補習は回数と実施日の事情でとぎれとぎれになる。例えば集中的に行うなどのより効果的な取り方や持ち方などが検討される必要がある。</p>	A	A	<p>○補習を行うことに敬意を表します。生徒が自ら求めて補習に取り組むことができれば、最高です。 ○生徒によっては、必要性がわかっていない人もいないかと思われる。 ○部活動との両立を図ろうとする生徒の姿勢を身近に感じることができ、感心しました。 ○生徒の実態もふまえ、機会の提供、場の提供をしていただけることは大変ありがたいことだと思います。先生方の負担が重くなっていませんか。</p>
<p>各種資格検定への取り組み 【成果と課題】 今年も生徒が熱心に資格取得に取り組めた。 【改善策・向上策】 資格研究も含め、資格取得のための学習の充実を図ってきたい。</p>	A	A	<p>○インテリア科の課題研究発表にもありましたが、生徒が進んで挑戦する姿勢がすばらしいと思います。 ○資格を活かして木曾で活躍する生徒を増やして欲しい。 ○在学中に各種資格の取得に臨める環境は、素晴らしいと思います。</p>

進路指導	評価	評価	意見・感想
<p>進路目標の明確化</p> <p>【成果と課題】 進路講演や企業説明会、外部の進学相談会を通して、自らの人生について考え、進学先、就職先を考えることができている。学科によって進路は様々であることから、個々に必要な情報を提供することが重要である。</p> <p>【改善策・向上策】 学習係等とも連携をしながら総合的な学習・探究の時間等も活用し、生徒が自らの目標実現に向けて学校生活を送れるよう、指導を行っていききたい。</p>	A	A	<p>○若者の離職率の高さが課題になるが、青峰高校の離職状況はどうか。それを分析し指導に生かすことが、生徒にとってもプラスになると思います。</p> <p>○個々の生徒に寄り添った指導をしている点、ありがたいです。</p> <p>○よく行っている。</p>
<p>具体的な進路指導</p> <p>【成果と課題】 各種進路行事に関しては各学年や学科の工夫もあり、成果をあげている。進学・就職に関する様々な情報を学校・分野別に整理しており、資料室等に来る生徒が多い。</p> <p>高大接続改革に関する大学入試の改革について、職員間で情報の共有を図り、共通テストに関する対策の検討を行うことができた。</p> <p>【改善策・向上策】 今後も進路指導係が主体となり、自立した進路選択と進路実現に向けて、3年生はもちろん、1・2年次から進路指導を充実させていきたい。</p> <p>来年度より大学入試が大きく変わることから、本年度の検討を生かしつつ、実際に対策をしていきたい。</p>	A	A	<p>○地元企業との連携など、外部資源の活用も是非検討してください。</p> <p>○評価の観点「国公立大学に20人以上の合格者を出すことができたか」については、難しくなっているのでは。</p>
<p>進路の実現</p> <p>【成果と課題】 3年生の大学進学希望者にはある程度幅をもたせた志望校の検討をさせることにより、個々の志望校の候補を広げることができた。</p> <p>それぞれの生徒が志望する進路に向けた基礎学力の定着は、十分であるとは言えない。学力をつけさせることが希望する進路の実現につながる。</p> <p>【改善策・向上策】 近年、学校推薦型選抜や総合型選抜も増えていることから、学科やそれぞれの学力に応じて、課外活動や学校外の活動なども生かし、一般入試にこだわらない入試を個々の生徒に提示して、希望する進路の実現につなげることも必要である。</p>	B	B	<p>○大学進学については、入試制度の変換期となり大変ですが、生徒が安心して受験できるようになることを望みます。</p> <p>○今の子供達は大変だなとつくづく感じます。先生方のご苦労も大きいと思います。</p> <p>○進路選択の方法が多様化複雑化して、担当の先生は本当に大変と思います。校務がバランスよく担当できるよう工夫してください。</p>

生徒支援	評価	評価	意見・感想
生徒の人権意識・自己指導力の育成 【成果と課題】 5・6月にゲートキーパー講座を行い、傾聴の姿勢を学ぶ機会を設けることができた。 10月にSNS・オンラインゲームに関するアンケートを行い、生徒の実態を把握し、HR等であらゆる観点で利用についてヤリスクについて考えさせることができた。	A	A	○哲学的な視点で語り合うことで他者の考えを自分なりに理解し、多様性を受け入れられるよう、更に取り組んで欲しい。 ○若いうちから人権意識の向上、人間尊重の心を育成できる環境は、大変良いと思います。
【改善策・向上策】 年間を通して計画的に人権教育を進めていきたい。 生徒に考えさせ自ら行動に移せるような場面を、より多く設定していきたい。			
社会性の涵養 【成果と課題】 生徒が地域貢献できるような機会を設け、支援することができた。 教員の支援がなくても社会と関わりを持とうとする生徒、社会の一員であるという自覚が持てる生徒を育成していきたい。	B	B	○自己判断、自己決定できる生徒を育てて欲しい。 ○素晴らしい活動が単発に終わってしまっている事が残念です。もっと地域社会、行政、自治体を巻き込んだ活動に発展することを望みます。 ○有権者学習は進められていると思いますが、投票をむやみに棄権することがないように、しっかり指導をお願いします。
【改善策・向上策】 モラル、マナーの向上、社会性、協調性の涵養を目指して、あらゆる場面で育成の機会であるという認識を全職員が持ち、取り組んでいきたい。			
カウンセリングの充実 【成果と課題】 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等外部機関と連携し、相談に対応することができた。また、学校生活適応感に関するアンケート（アセス）を実施し、学年や授業担当の担当者を中心に情報を共有するとともに、その結果から問題を抱える生徒をカウンセリングにつなぐことができた。	A	A	○近年発達障がいを持つ生徒（子ども）等、個別に対応する必要な子が多くなってきている。全職員が情報を共有し、対処している点よいと思います。 ○生徒はもちろんですが、教職員の皆様にもこういった機会は与えられているのでしょうか。難しい時代です。 ○不適応の原因となるものが本人の内にあつたとしても、これ以上の自死者は出さないという強い意志を学校も地域も持ち続けたいです。
【改善策・向上策】 相談窓口があることを生徒・保護者に周知すると共に、職員研修なども定期的に行い認識を深め、多様化する生徒への対応がきめ細かにできるようにする。また個人で抱え込むのでは無くチームで迅速に対応できるような連絡を取り合える環境を整える。			

特別活動	評価	評価	意見・感想
自主活動の充実と生徒の自立 【成果と課題】 中信地区の生徒会交流会などに参加し他校の様子を知ること、改めて自分たちの学校について考える機会となった。また、学校を何とかしたいという意識や責任感を持つことができた。	B	B	○環境改善意識、問題意識はこれからの課題だと思います。PTAとの連携など自分事として取り組む環境の構築に期待します。
【改善策・向上策】 校外で学んだこと・感じたことを、校内活動につなげていきたい。また、役員による連絡会など情報共有の機会を多くしていきたい。			
地域を視野に入れた活動 【成果と課題】 着陸祭、地域行事への参加、ボランティア活動などを通して、さらに地域との関わりの大切さを考えることができた。	B	B	○活動を継続することで、見通しを持って積極的に取り組むようになる。木曾養護学校との交流も回を重ねるごとに自然な姿が見られた。 ○新聞報道等でも生徒が地域社会に出て活動したり、地域のために活動している姿を見ます。（特に職業科の生徒）好感をもって見えています。 ○今後も地域の活動に自発的に参加されることを希望する。 ○専門科の課題研究発表会を見学し、地域住民との関りを自主的に図ろうとする生徒の姿勢を垣間見ました。 ○手仕事市や雪灯りの行事で多くの生徒が生き生きと活動していた。協力してくれたことに、地域も何らかの思いで応えたい。
【改善策・向上策】 地域活動にもっと積極的に関わり、連携した取り組みができないか模索していきたい。			

全般	評価	評価	意見・感想
PTA活動の充実・家庭との連携 【成果と課題】 地区PTA活動及び各委員会の活動は例年どおり行うことができた。PTA会長・副会長の選出方法を見直す時期に来ていると思われる。 【改善策・向上策】 選出方法について現役員を中心に考えていきたい。	B	B	○同感です。やらされ感からは良いものが生まれません。
情報発信 【成果と課題】 スクールマガジンや青峰now!を通して、生徒の活躍や学校の様子を発信できた。また、学校案内パンフレットの構成を工夫し、よりよく学校の魅力を伝えられた。青峰now!は更新が遅れ青峰was!となってしまったことや更新頻度が少なかったことが課題である。 【改善策・向上策】 情報共有を積極的にを行い、HPの更新頻度を上げ、遅れることなく情報発信できるように努めたい。	B	B	○郡内各町村の家庭に回覧で様子を知らせていて、よいと思います。 ○HPは見たことがありません。もっとPRすべきでは。 ○新聞記事になると嬉しい。もっと載ってほしいと思うのですが。
地域との連携・開かれた学校づくり 【成果と課題】 課題研究発表会や専門科展（森林環境科・インテリア科）において、生徒の学習内容及び成果を地域の方々に広く公開することができた。 体験入学の参加者数は、昨年度を20名ほど上回った。全学科での体験授業、全体会およびクラブ見学等、充実した内容で実施することができた。また、郡外の中学生の参加も多かった。 4月と9月に実施している公開授業の参加者数は、昨年同様伸び悩んだ。本年度は9月を公開授業週間としたが、期待したほど参観者は増加しなかった。 【改善策・向上策】 ホームページ等を通して、さらなる広報活動の充実に努めたい。 9月実施の公開授業週間は、来年度もう一度実施してから時期や内容の検討をしたい。	A	A	○地元中学生へ向けた発信はむずかしいでしょうか。「今こんな授業をしています」「こんな行事があって、こんなふうに活動しました」といったような内容で科ごとに生徒が作成したら、親しみや興味ももてるのではないかと思います。そういう発信物を作る活動自体がよい学びの機会になるのではないのでしょうか。卒業生が出身中学へ来て学校紹介をしてくれますが・・・。 ○課題研究発表会では、もう少し保護者等の参加があればよいと思いました。 ○地元企業等にもっと積極的に発信したほうがよい。そういった機会を活用して改善が必要な部分や現実を知ってもらうことも必要である。
生徒・職員の健康管理 【成果と課題】 (生徒)感染症の流行を防ぐため、年度初めと流行期に保護者向けの通知を出し、家庭と協力して予防に努めた。健康診断後、受診勧告をしてもなかなか受診に繋がらなかったため、受診率の向上を引き続き課題としていきたい。 (職員)人間ドック受診の呼びかけを行い、受診率が上がるようにした。ストレスチェック、超過勤務時間調査を行い、声かけや面談などを実施した。人間ドックの受診率が共済掛金に影響する可能性も出てきたので、職員の健康への意識を高めることを今後の課題としたい。 【改善策・向上策】 生徒とその保護者、また職員の意識を高める為、校内向け、保護者向けの保健だよりの内容を充実させる。	B	B	○紙媒体の充実を図ることは教職員の負担増にもつながるため、HP等活用して情報発信する方法も検討してはどうか。
連絡体制の完備 【成果と課題】 一斉メールにより情報を各家庭に伝えることができた。登録率が100%でないことや登録間違いがあることが課題である。 【改善策・向上策】 登録率100%に向け、継続して登録の呼びかけを行うことや登録案内を分かりやすくし、登録間違いを減らせるように努めたい。	B	B	○タイムリーな情報提供は、大変助かりました。 ○非常時に備え、100%登録をめぐしてほしい。